

## 「は」と「が」の使い分け

- 1 「は」は「主題」 「が」は主格

あの人は李さんです。

あの人が李さんです。

りんごは三つ買いました。  
(を)

~~りんごが三つ買いました。~~

- 2 初出は「が」 二回目以降は「は」

むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。

おじいさんは山に柴刈りに行きました。  
(薪を集めに)

- 3 旧情報は「は」 新情報は「が」

「あの人はだれですか。」「あの人は李さんのお兄さんです。」

「だれが来ましたか。」「李さんが来ました。」

むかし東京は、江戸と呼ばれていました。  
(言いたいこと)

(だれが発明したか、話しています。)

「エジソンがレコードを発明しました。」

「ベルが電話を発明しました。」

- 4 文全体が「新情報」の場合は「が」

空が晴れてきました。風が吹いています。(気象)

花が咲いています。葉が揺れています。髪の毛が伸びました。(自然現象)

- 5 全体は「は」 部分は「が」

ゾウは鼻が長いです。中国語は発音が難しいです。

妹は気が強いです。

- 6 主題の「は」は、文末まで係る。

夏目漱石は江戸で生まれ、松山で中学の教師をしたあと、イギリスに留学した。

妹は風邪を引いたので、病院に薬をもらいに行った。

妹が風邪を引いたので、病院に薬をもらいに行った。(文の後半の主語は省略)  
「私がもらいに行った」という意味

7 対比は「は」で表す。

りんごはあまいが、夏みかんはすっぱい。

兄は会社に出勤し、弟は高校に行った。

日本語は文法は難しいが、発音はやさしい。  
(主題) 対比 対比

日本語は文法が難しいが、中国語は発音が難しい。  
(全体) (部分) (全体) (部分)  
対比 対比

8 連体修飾節の中は「が」(「の」でもよい。)  
(動詞/イ形容詞/ナ形容詞+名詞)

母が作った弁当はおいしいです。  
(の)

兄が撮った写真はこれです。  
(の)

字が汚い作文は読みにくいです。  
(の)

体がじょうぶな子供がほしいです。  
(の)

9 条件文は「が」で表す。

お金があれば、旅行に行きたい。お金があっても、旅行に行けない。

お金があっても、時間がなければ、旅行に行けない。  
(前の「が」は対比の「は」に換えてもいい。)

10 うなぎ文 (AはBだ。) →省略した言い方

「僕はうなぎだ」→僕はうなぎを注文します。

「私はてんぷらよ」→私はてんぷらを注文します。

春はあけぼの。夏は夜。(春は明け方がおもしろい。夏は夜がおもしろい。)

「寿司は酒だね。枝豆はビールだね。」

(寿司を食べるときは酒を飲むとおいしい。枝豆を食べるときはビールを飲むとおいしい。)

男は度胸、女は愛嬌。(男は強い精神力、女はかわいらしさが大切だ。)